

Compass

English Communication

新『学習ノート』で生徒を鍛える

中野義雄



期待と不安を胸にコミュニケーション英語の授業を始めてから早3年。オーラルインタラクションやリスニングを通した概要把握、単語のクイックレスポンス (QR)、ペア音読、虫食い音読、絵や図を描きながら内容をまとめた後のリプロダクション等々、この3年間は *Compass* を使って新課程の指導法を模索しながら、生徒と楽しく英語を学んできました。これまで授業プリントは、指導資料データを加工して作成していましたが、新しくなった『学習ノート』を見ますと、授業ノートの要素が新たに盛り込まれ、各パートは教科書と同じ見開き2ページ構成になっており、これ1冊で授業づくりができそうです (→p.13)。本稿では、4技能をフルに使った『学習ノート』の使い方を考えてみます。

左ページ冒頭に掲載されている教科書本文は、行間に書き込みができるようスペースが十分に設けてあるので、そこに正しい英文理解に必要な事柄をどんどん書き込んで、英語の理屈を頭に叩き込みます。また、スラッシュ付きなので、英文がしっかり理解できたら、意味のまとまりを意識しながらスラッシュリーディングをします。リピートや斉読、read & look up やなりきり音読、スラッシュごとの口頭和訳などペアで練習します。目標は、まっさらな教科書の本文を使ってのチャンクリーディングと口頭和訳。目標達成をめざして本文を何十回と読み込みます。

左ページ下段にある単語の意味調べは、予習等で意味を確認したら、英日のQRペア活動で音声と意味をつなげて、仕上げにノートや宿題プリン

トで書く練習をします。もっと生徒に負荷をかけるには、新出単語を含むフレーズや文をまるごとQRします。例えば新出単語 *past* のQRは、「私の過去」↔ “my past”, 「私の過去からの手紙」↔ “the letter from my past”, 「私は自分の過去からの手紙を読んだ」↔ “I read the letter from my past” の順序で、単語→句→文と長くしていきます。他の文もすべてQRできるようにすれば最強！と生徒を煽ります。

右ページ上段は、文法の確認です。「現在の状態や習慣的動作を表すには、現在形の動詞を使う」などの文法説明がありますので、ペアで現在形の動詞を20個挙げたり、every morning や usually を使った例文を5個作ったりなどの活動を通してしっかり理解します。下段にある英問英答と日本語要約の空所補充は、より力がつくよう、英問英答は何も見ないでペアでやりとりできるまで練習し、Part 4まで学び終えたら、計12個の質問をランダムにペアで出し合います。また日本語要約は、習った本文を参考にしながら和文英訳した後、ペアで翻訳活動するのもよいでしょう。

各レッスン末にあるまとめのExerciseでは、新たにT/F問題と英語要約の空所補充が追加されました。T/Fはペアで全ての選択肢をリーズニングし、要約はキーワードのみノートに書き出してリプロダクションすると力がつきそうです。

生徒の習熟度や単元の目標に合わせて、実施する帯活動を精選して、どんどん生徒を鍛えてあげましょう。

(なかの よしお・愛知県立犬山高等学校教諭)